

審査意見への対応を記載した書類（6月）

（目次） 看護学研究科 看護学専攻（D）

1. ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー及びアドミッション・ポリシーについて、以下の点が明確になるよう具体的に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。（是正事項）

(1) 本専攻に設ける履修上の区分である「PhD コース」のディプロマ・ポリシーとして「看護学の高い専門知識を有し、国際的・学際的な視点をもって研究を推進し、看護学の発展に寄与できる能力を身につけている」ことを掲げているが、「国際的・学際的な視点」が具体的にどのようなことを意図しているのか判然とせず、また、カリキュラム・ポリシーにも「国際的・学際的」といった内容は見受けられないことから、ディプロマ・ポリシーに掲げることの妥当性を判断することができない。このため、ディプロマ・ポリシーに「国際的・学際的な視点」を掲げることの妥当性を明確かつ具体的に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。・・・1

(2) ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの対応関係について、「設置の趣旨等を記載した書類（資料）」の「資料6 3つのポリシーと教育課程の対応表」により示されているがディプロマ・ポリシーは本専攻に設ける履修上の区分である「PhD コース」と「DNP コース」においてそれぞれ設定する一方、カリキュラム・ポリシーは専攻共通で設定しており、両コースのディプロマ・ポリシーに掲げる各項目とカリキュラム・ポリシーに掲げる各項目の対応関係が示されていないことから、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの対応関係が判然としない。このため、ディプロマ・ポリシーに整合したカリキュラム・ポリシーが適切に設定されているとは判断することができないことから、関連する審査意見への対応を踏まえ、両コースのディプロマ・ポリシーに掲げる各項目と整合したカリキュラム・ポリシーが適切に設定されていることについて、図や表を用いつつ具体的に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。・・・4

(3) アドミッション・ポリシーについて、関連する審査意見への対応を踏まえ、ディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシー、教育課程等との整合性を担保した上で、妥当なものであることを明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。・・・6

2. 審査意見1のとおり、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーの妥当性について疑義があることから、教育課程全体が妥当であるとの判断をすることができない。このため、審査意見1への対応を踏まえて、本専攻の教育課程が適切なディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づき、修得すべき知識や能力等に係る教育が網羅され、体系性が担保された上で、適切に編成されていることを明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。（是正事項）・・・7

3. 本専攻のアドミッション・ポリシーについて、本専攻に設ける履修上の区分である「PhD コース」と「DNP コース」それぞれで設定しているが、「入学者選抜は、筆記試験（小論文、英語、専門科目）と口述試験（出願書類に基づく質問、面接試験）及び志望理由等を総合的に判断し選考する」と説明しているのみであり、コースごとにアドミッション・ポリシーに掲げている資質・能力をどの試験により、何を評価・判定するのか判然としないことから、アドミッション・ポリシーに基づいた適切な入学者選抜になっているのか疑義がある。このため、コースごとにアドミッション・ポリシーに掲げている資質・能力をどの試験により、何を評価・判定するのかについて具体的に説明することにより、アドミッション・ポリシーに基づいた適切な入学者選抜であることについて明確かつ具体的に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。（是正事項）

・・・9

4. 教員資格審査において、「不可」や「保留」、「適格な職位・区分であれば可」となった授業科目について、当該授業科目を担当する教員を専任教員以外の教員で補充する場合には、当該授業科目の教育課程における位置付け等を明確にした上で、当該教員を後任として補充することの妥当性について説明すること。

・・・12

(是正事項) 看護学研究科 看護学専攻 (D)

1. ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー及びアドミッション・ポリシーについて、以下の点が明確になるよう具体的に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

(1) 本専攻に設ける履修上の区分である「PhD コース」のディプロマ・ポリシーとして「看護学の高い専門知識を有し、国際的・学際的な視点をもって研究を推進し、看護学の発展に寄与できる能力を身につけている」ことを掲げているが、「国際的・学際的な視点」が具体的にどのようなことを意図しているのか判然とせず、また、カリキュラム・ポリシーにも「国際的・学際的」といった内容は見受けられないことから、ディプロマ・ポリシーに掲げることの妥当性を判断することができない。このため、ディプロマ・ポリシーに「国際的・学際的な視点」を掲げることの妥当性を明確かつ具体的に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

(対応)

当初より、看護実践・看護学の特性として「国際的・学際的」であることは含意されているものの前提に立っていたが、審査意見の通り具体性に欠けていることから、ディプロマ・ポリシーに「国際的・学際的視点」を掲げることの妥当性を明確にするために、その根拠を示すとともに、各コースのディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーにおける「国際的・学際的視点」の意味するところを追記した。

① 「国際的・学際的視点」を掲げた根拠：看護は人種・国籍を超えて提供されるという国際性を、看護学は人間の健康と安寧という人間にとって普遍的な現象を対象としていることから、隣接諸科学の知見や価値観から多くを学んでいる学際性を、根底に有している。

具体的には、本学は、看護学部開設当初よりコア・コンセプトの一つとして、「国内外の多様な文化と価値観を尊重する国際性(Internationality)」を重視し、欧米・アジアの諸大学と提携を結び教員・学生間の交流を継続している(添付資料1)。これらの国際交流を基盤として、提携校との研究協力などに、PhD コースの学生が参加することを通して国際的視点を培うためである。

また、看護学は人々の複雑な健康課題を扱うことから、複数の専門領域と共に取り組む学際的アプローチの視点が重要である。加えて、看護は実践としては長い歴史をもつが、学問分野としての看護学は後発であり、隣接諸科学との関係において発展してきたという側面をもっていることから、看護実践・看護学を探究するうえで、学際的視点をもつことは不可欠であると考えためである。

コース別では、PhD コースにおいては特に国際性を、DNP コースにおいては特に学際性を涵養する。

② 看護学の学術性を探究する PhD コースには、上記①の理由によりディプロマ・ポリシーに、「国際的・学際的視点」をもって研究を推進していくことを明記している。このディプロマ・ポリシーに対応して、カリキュラム・ポリシーに「国際的・学際的」な内容を具体的に追記した。

③ 看護実践の質向上・変革を目指す人材を育成する DNP コースにおいても、看護実践が看護学のみではなく医学・薬学をはじめとする自然諸科学、社会学や心理学等の隣接諸科学の知識が必要なのは周知されていることから、その看護実践の質向上・変革を目指すためには、特に学際的な視点

が必要であることから、DNP コースのディプロマ・ポリシーに「学際的視点」を加え、それに対応してカリキュラム・ポリシーにも「学際的視点」を追記した。

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類 (9～10, 11～12 ページ)

| 新 | 旧 |
|---|---|
| <p><ディプロマ・ポリシー></p> <p>DNP コース</p> <p>B 看護実践の質向上・変革をもたらす実装的研究を推進するために、学際的視点をもった創造的な研究能力を身につけている。</p> <p><カリキュラム・ポリシー></p> <p>c 「共通科目」においては、看護実践・看護学の学問的位置づけを学際的に探究する「看護科学哲学」(添付資料2)、看護実践における研究の本質的意義を探究し、国際的発信に耐えうる高度な研究方法論を修得する「看護学研究方法論」(添付資料3)を必修科目として設定する。加えて、研究のために必要な高度統計学を修得する「高等社会統計学」及び教育力を高めるための「看護教育学特論」を選択必修科目として設定する。</p> <p>d 「専門科目」においては、コース別に以下のように定める。</p> <p>PhD コース：それぞれの看護学専門領域における国内外の研究動向を国際的・学際的に熟考し、自らの研究課題を見出し深化させていく能力を培うための「(各専攻領域)看護学特論」と、自らの研究課題を探求し学位論文作成の基盤を確かにしていくための「(各専攻領域)看護学演習」を設定する。特に、両科目においては海外文献の精読を課すとともに、本学提携校との交流を通して、自らの研究課題を国際的視点をもって探究する。</p> | <p><ディプロマ・ポリシー></p> <p>DNP コース</p> <p>イ 看護実践の質向上・変革をもたらす実装的研究を推進するために必要な、創造的な研究能力を身につけている。</p> <p><カリキュラム・ポリシー></p> <p>ウ 「共通科目」においては、看護実践・看護学の学問的位置づけを探究する「看護科学哲学」、看護実践における研究の本質的意義を探究し、高度な研究方法論を修得する「看護学研究方法論」を必修科目として設定する。加えて、研究のために必要な高度統計学を修得する「高等社会統計学」及び教育力を高めるための「看護教育学特論」を選択必修科目として設定する。</p> <p>エ 「専門科目」においては、コース別に以下のように定める。</p> <p>PhD コース：それぞれの看護学専門領域における国内外の研究動向を熟考し、自らの研究課題を見出し深化させていく能力を培うための「(各専攻領域)看護学特論」と、自らの研究課題を探求し学位論文作成の基盤を確かにしていくための「(各専攻領域)看護学演習」を設定する。</p> |

DNP コース：看護実践の質改善や組織変革等を実現させるために必要な知識を学際的視点をもって教授する「DNP 特論 I（組織論）」、「DNP 特論 II（政策論）」と、それらを実践していくための方策を探究し、質改善や組織変革に不可欠な学際的視点を広げ、企画・実践する能力を培う「DNP 演習」を設定する。

e 学位論文の研究指導のために、コース別に以下のように「研究科目」を設定する。

PhD コース：「看護学特別研究」看護学の発展に寄与しうる研究課題を探究する研究過程を指導し、自立した高度な研究能力を培う。この過程で、国際学会参加を経験し、研究成果を国際的に発信する方法を指導する。

DNP コース：「DNP プロジェクト研究」看護実践の質向上・変革に寄与しうるプロジェクトを学際的視野に立って企画・実践し、論文としてまとめる過程を指導し、高度看護実践者としての確かな基盤となる研究能力を培う。

DNP コース：看護実践の質改善や組織変革等を実現させるために必要な知識を教授する「DNP 特論 I（組織論）」、「DNP 特論 II（政策論）」と、それらを実践していくための方策を探究し、企画・実践する能力を培う「DNP 演習」を設定する。

o 学位論文の研究指導のために、コース別に以下のように「研究科目」を設定する。

PhD コース：「看護学特別研究」看護学の発展に寄与しうる研究課題を探究する研究過程を指導し、自立した高度な研究能力を培う。

DNP コース：「DNP プロジェクト研究」看護実践の質向上・変革に寄与しうるプロジェクトを企画・実践し、論文としてまとめる過程を指導し、高度看護実践者としての確かな基盤となる研究能力を培う。

(是正事項) 看護学研究科 看護学専攻 (D)

1. ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー及びアドミッション・ポリシーについて、以下の点が明確になるよう具体的に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

(2) ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの対応関係について、「設置の趣旨等を記載した書類(資料)」の「資料6 3つのポリシーと教育課程の対応表」により示されているがディプロマ・ポリシーは本専攻に設ける履修上の区分である「PhD コース」と「DNP コース」においてそれぞれ設定する一方、カリキュラム・ポリシーは専攻共通で設定しており、両コースのディプロマ・ポリシーに掲げる各項目とカリキュラム・ポリシーに掲げる各項目の対応関係が示されていないことから、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの対応関係が判然としない。このため、ディプロマ・ポリシーに整合したカリキュラム・ポリシーが適切に設定されているとは判断することができないことから、関連する審査意見への対応を踏まえ、両コースのディプロマ・ポリシーに掲げる各項目と整合したカリキュラム・ポリシーが適切に設定されていることについて、図や表を用い、具体的に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

(対応)

ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシー及びアドミッション・ポリシーの対応関係を分かりやすくするために、「資料6 3つのポリシーと教育課程の対応表」を、上記(1)の対応(追記)を含めて、以下の点で書き改めた。

- ① PhD コース・DNP コースを別々に色分けして表記
- ② ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの各項目の表記の変更
- ③ カリキュラム・ポリシーの各項目と、ディプロマ・ポリシー(DP)の各項目との対応関係を明示
- ④ カリキュラム・ポリシー(CP)と授業科目の対応関係を明示

加えて、ディプロマ・ポリシーに整合したカリキュラム・ポリシーが適切に設定されていることを示すために、カリキュラム・ポリシーの基盤とする観点一すなわち、学位表記 PhD(Doctor of philosophy in Nursing) DNP(Doctor of Nursing Practice)が示すように、同一の Doctor 博士(看護学)を授与する看護学専攻領域においては、その同一という学位授与に適合して、PhD コースと DNP コースに共通する科目が設定され、両コースの英字表記(philosophy 学術性、Nursing Practice 実践性)が示すように探究する側面が異なることから、各コース別に専門科目と研究科目が設定されている一を示す項目 a(旧ア)を、下記のように改めた。

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類(11~12 ページ)

| 新 | 旧 |
|--|------------------------|
| 「資料6 3つのポリシーと教育課程の対応表」を、以下を明確にして書き改めた。 | 「資料6 3つのポリシーと教育課程の対応表」 |

| | |
|--|--|
| <p>① 3つのポリシーを，PhD コースと DNP コースごとに色分けした。</p> <p>② 表記の変更 ディプロマ・ポリシー (DP) の各項目の表記を A～C カリキュラム・ポリシー (CP) a～e</p> <p>③ カリキュラム・ポリシーの各項目と，ディプロマ・ポリシー (DP) の各項目との関係を，カリキュラム・ポリシーの項目毎に C P (PhD 又は DNP) A～C と表記することで，対応関係を明らかにした。</p> <p>④ カリキュラム・ポリシー (CP) と授業科目の対応関係を，C P (PhD 又は DNP) a～e として明示した。</p> <p><カリキュラム・ポリシー> a 看護学の学術的側面を学修する PhD コース，看護学の専門職的・実践的側面を学修する DNP コースを設置する。両コースはともに実践の科学である看護学の探究によって同一学位を授与されることから，その基盤は共通であると考え，「共通科目」を設定する。また，各コースの探究する側面が異なることから，それぞれのコースにおいて専門分野に対応した講義・演習を含む「専門科目」と，学位論文の研究指導を行う「研究科目」は，コースごとに別に設定する。</p> | <p>ディプロマ・ポリシー (DP) ア～ウ</p> <p>カリキュラム・ポリシー (CP) ア～オ</p> <p><カリキュラム・ポリシー> ア 看護学の学術的側面を学修する PhD コース，看護学の専門職的・実践的側面を学修する DNP コースを設置する。両コースにとっての基盤は共通であると考え，「共通科目」を設定する。また，それぞれのコースの専攻する専門分野に対応した講義・演習を含む「専門科目」と，学位論文の研究指導を行う「研究科目」を加えた3つの科目群により構成する。</p> |
|--|--|

(是正事項) 看護学研究科 看護学専攻 (D)

1. ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー及びアドミッション・ポリシーについて、以下の点が明確になるよう具体的に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

(3) アドミッション・ポリシーについて、関連する審査意見への対応を踏まえ、ディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシー、教育課程等との整合性を担保した上で、妥当なものであることを明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

(対応)

アドミッション・ポリシーと、ディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシー、教育課程等との整合性を、新たに作成した「資料6：3つのポリシーと教育課程の対応表」において明示するとともに、アドミッション・ポリシーに各コースの特性を分かりやすく追記した。

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類 (24 ページ)

| 新 | 旧 |
|---|----------------|
| PhD コース : 研究・教育の場において看護学を探究し、国際的・学際的に看護学の学術的発展を目指すコース | PhD コース |
| DNP コース : 実践・教育の場において看護実践の質向上・変革を実現し、看護の専門的・実践的発展を目指すコース | DNP コース |

(是正事項) 看護学研究科 看護学専攻 (D)

2. 審査意見 1 のとおり、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーの妥当性について疑義があることから、教育課程全体が妥当であるとの判断をすることができない。このため、審査意見 1 への対応を踏まえて、本専攻の教育課程が適切なディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づき、修得すべき知識や能力等に係る教育が網羅され、体系的性が担保された上で、適切に編成されていることを明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

(対応)

審査意見 1 を受けて改正した「資料 6 : 3つのポリシーと教育課程の対応表 (改訂版)」に示す通り、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの対応を、PhD コースと DNP コースをコース別に表示することによって、ポリシー間の対応の整合性を分かりやすく示した。また、カリキュラム・ポリシーと授業科目の関連性を矢印で示すことによって、教育課程全体が妥当であることを明示した。

その整合性を裏づけるために、本博士後期課程の PhD コースと DNP コースは同一学位、博士 (看護学) を授与する課程であるが、学位の英字表記が意味するように、PhD (Doctor of Philosophy in Nursing) コースにおいては看護学の学術性を探究し、DNP (Doctor of Nursing Practice) コースにおいては看護実践の質向上・変革を目指す専門的実践性を探究するという異なる側面を有していることに基づいて、以下の説明を追記している。

(新旧対照表)設置の趣旨を記載した書類 (9 ページ, 12 ページ)

| 新 | 旧 |
|---|--|
| <p>第 1 設置の趣旨及び必要性</p> <p>3 教育研究上の目的・目標及び育成する人材</p> <p>(1) 教育研究上の目的・目標 (p. 9)</p> <p>(略)</p> <p>この理念の下に、本学博士後期課程においては、看護学の学術的発展に貢献できる研究者・教育者となる人材を養成する「(学術)看護学博士 (PhD (Doctor of Philosophy in Nursing) コース)」と、高度な看護の実践者・管理者となる人材を養成する「(実践)看護学博士 (DNP (Doctor of Nursing Practice) コース)」を設置する。</p> <p>両コースは、同一の博士 (看護学) の学位を授与する課程であるが、異なる人材養成を目指すことから、PhD コースと DNP コースのそれぞれのディプロマ・ポリシー (学位授与方針) は、次のとおりである</p> | <p>第 1 設置の趣旨及び必要性</p> <p>3 教育研究上の目的・目標及び育成する人材</p> <p>(1) 教育研究上の目的・目標 (p. 9)</p> <p>(略)</p> <p>この理念の下に、本学博士後期課程においては、看護学の学術的発展に貢献できる研究者・教育者となる人材を養成する「(学術)看護学博士 (PhD (Doctor of Philosophy in Nursing) コース)」と、高度な看護の実践者・管理者となる人材を養成する「(実践)看護学博士 (DNP (Doctor of Nursing Practice) コース)」を設置する。</p> <p>PhD コースと DNP コースのそれぞれのディプロマ・ポリシー (学位授与方針) は、次のとおりである【資料 5】。</p> <p>(以下略)</p> |

【資料5】。

(以下略)

第3 教育課程編成の考え方及び特色

2 教育課程の概要(p.12)

本博士後期課程は、以下の図表1に示す通り、両コースに共通する「共通科目」と、コースごとの「専門科目」、「研究科目」の3つの科目群によって構成されている(図表1)。

なお、各科目は「共通科目」が先行し、次いで「専門科目」を学修し、それらを統合して学修する「研究科目」が設置されている。

第3 教育課程編成の考え方及び特色

2 教育課程の概要(p.12)

本博士後期課程は、以下の図表1に示す通り、「共通科目」、「専門科目」、「研究科目」の3つの科目群によって構成されている(図表1)。

(是正事項) 看護学研究科 看護学専攻 (D)

3. 本専攻のアドミッション・ポリシーについて、本専攻に設ける履修上の区分である「PhD コース」と「DNP コース」それぞれで設定しているが、「入学者選抜は、筆記試験（小論文、英語、専門科目）と口述試験（出願書類に基づく質問、面接試験）及び志望理由等を総合的に判断し選考する」と説明しているのみであり、コースごとにアドミッション・ポリシーに掲げている資質・能力をどの試験により、何を評価・判定するのか判然としないことから、アドミッション・ポリシーに基づいた適切な入学者選抜になっているのか疑義がある。このため、コースごとにアドミッション・ポリシーに掲げている資質・能力をどの試験により、何を評価・判定するのかについて具体的に説明することにより、アドミッション・ポリシーに基づいた適切な入学者選抜であることについて明確かつ具体的に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

(対応)

審査意見3を受けて、アドミッション・ポリシーに掲げている資質・能力をどの試験により何を評価・判定するのかについて、「PhD コース」と「DNP コース」ごとに、以下のように「5 入学者選抜」に具体的説明を加えた。

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類 (25 ページ)

| 新 | 旧 |
|--|--|
| <p>5 入学者選抜</p> <p>(1) 入学者選抜の基本方針</p> <p>入学者選抜はコースごとに行い、学力試験、小論文、面接試験（研究計画書に基づくプレゼンテーションと口述試験）及び事前提出書類（入学願書、志願理由書、研究計画書、成績証明書）等により総合的に判定する。各コースの基本方針をアドミッション・ポリシー（ア～ウ）に対応して、以下に記述する。</p> <p><PhD コース></p> <p>PhD コースは、研究・教育の場において看護学を探究し、国際的・学際的に看護学の学術的発展を目指すコースである。</p> <p>・【ア 看護学の研究者・教育者として、研究課題を探究し続けるための基礎的な研究能力】は、学力試験（英語、小論文、専門科目）及び面接（研究計画書に基づく口述試験）により総合的に判定する。面接では、研究計画書に基づいたプレゼンテーションを行い、看護学の探究者として必要</p> | <p>5 入学者選抜</p> <p>入学者選抜は、筆記試験（小論文、英語、専門科目）と口述試験（出願書類に基づく質問、面接試験）及び志望理由等を総合的に判断し選考する。</p> |

な論理的思考力，発想力，表現力を評価する。

- ・「イ 看護実践・看護学の専門性を希求し，看護学の発展に貢献しようとする強い意志」については，志願理由書に基づいた面接において看護学探究者としての意志と，これまで取り組んできた研究等を確認するとともに，小論文，志願する専攻領域に関する学力試験により総合的に判定する。
- ・「ウ 看護学の研究を自立して継続的に取り組む強い意志」については，志願理由書及び研究計画書に基づいて，これまで取り組んできた研究課題や成果を面接での口述試験で判定する。

<DNP コース>

DNP コースは，実践・教育の場において，看護実践の質向上・変革を実現し，看護の専門的・実践的發展を目指すコースである。

- ・「ア 高度看護実践者・管理者としての誇りを持ち，看護実践の質向上・変革を探究し続ける強い意志」については，志願理由書及び小論文，また，面接での口述試験により看護実践者としてこれまで取り組んできた実装的研究などの成果や課題を確認することで，探究者としての意志を査定する。加えて，志願する専攻領域に関する学力試験により継続しうる能力を査定し，総合的に判定する。
- ・「イ 看護実践の質向上・変革を探究するための基礎的な研究能力」については，学力試験（英語，小論文，専門科目）及び面接（研究計画書に基づく口述試験）により総合的に判定する。面接では，研究計画書に基づいたプレゼンテーションを行い，看護学の探究者として必要な論理的思考力，発想力，表現力を評価する。
- ・「ウ 実装的研究を指向し，それを実践に活かしていくためのリーダーシップ能

力」については、看護実践者としてこれまで取り組んできたリーダーシップを発揮した実践の成果等を、研究計画書に基づく面接での口述試験で評価する。また、志願理由書や事前提出書類から、リーダーシップ能力を総合的に判定する。

(2) 選抜制度と方法

- ・入学選考は原則年に1回とする。
- ・学力試験、小論文、面接試験（研究計画書に基づくプレゼンテーションと口述試験）及び事前提出書類（入学願書、志願理由書、研究計画書、成績証明書）等により総合的に判定する。

(3) 選抜体制

入学試験を適正かつ公正に実施することを目的に、看護学研究科長を委員長とする看護学研究科入学試験委員会を中心に入試本部を組織し、各部署に教職員を適切に配置した万全の体制をとる。

入学試験の準備・実施計画の作成、試験結果の集計、発表、手続き及び試験監督者等の選出などの業務は、看護学研究科入学試験委員会が行う。

看護学研究科入学試験委員会は、入学試験担当教職員の任務を明確にした役割分担表を作成する。さらに詳細な実施要領、監督要領及び面接要領を作成するとともに、入学試験実施前に担当者への説明会を開催し、関係する教職員が各自の役割分担に関する詳細及び全体の流れを把握できるよう周知徹底を図る。

(一) 看護学研究科 看護学専攻

4. 教員資格審査において、「不可」や「保留」,「適格な職位・区分であれば可」となった授業科目について、当該授業科目を担当する教員を専任教員以外の教員で補充する場合には、当該授業科目の教育課程における位置付け等を明確にした上で、当該教員を後任として補充することの妥当性について説明すること。

(対応)

「調書番号 22 森莉那：職位不適格 関連する業績が不足 適切な職位講師 適切な職位・区分であれば D 可」と判定されているが、学部・博士前期課程における職位が「准教授」であることから、博士後期課程における職位のみ「講師」とすることは、学内的な混乱を生じる可能性があることに鑑み、このたびは森莉那の申請を辞退する。

それに従い、森莉那の科目担当である「成人看護学演習」は、当初の申請にある谷口千枝、林さえ子で十分担当可能であると考え、当該シラバスを変更する（添付資料4）。

(新旧対照表) シラバス「成人看護学演習」

| 新 | 旧 |
|-------------------|-----------------------|
| 教員名 谷口千枝 林さえ子 | 教員名 谷口千枝 林さえ子 森莉那 |
| 担当部分 谷口千枝 林さえ子 | 担当部分 谷口千枝 林さえ子 森莉那 |

愛知医科大学看護学部における学術国際交流活動

学術国際交流 International Academic Exchange

| 大学名 Universities | 国名 Countries | 開始年月 Since | 交流内容 Activities |
|--|---|--------------------------|--|
| サンディエゴ大学 ハーン看護健康科学学部 The University of San Diego Hahn School of Nursing and Health Science | アメリカ合衆国 U.S.A. | 平成14年7月 July 2002 | <ul style="list-style-type: none"> 研究協力 Research Cooperation 学術的資料や情報の交換 Exchange of Academic Materials and Other Information |
| オウル大学医学部 健康科学センター看護科学学科 The University of Oulu Faculty of Medicine, Institute of Health Sciences / Nursing Science | フィンランド Finland | 平成16年6月 June 2004 | <ul style="list-style-type: none"> 教員や研究者・大学院生の交流 Exchange of Faculty Members, Research Scholars, and Graduate Students 研究協力 Research Cooperation 学術的資料や情報の交換 Exchange of Academic Materials and Other Information |
| ケース・ウェスタン・リザーブ大学 フランシス・ペイン・ボルトン看護学部 Case Western Reserve University Frances Payne Bolton School of Nursing | アメリカ合衆国 U.S.A. | 平成21年3月 March 2009 | <ul style="list-style-type: none"> 学部生の短期留学 Short-Term Training Program for Undergraduate Students 教員や研究者・大学院生の交流 Exchange of Faculty Members, Research Scholars, and Graduate Students 研究協力 Research Cooperation 学術的資料や情報の交換 Exchange of Academic Materials and Other Information |
| マハサラカム大学看護学部 Mahasarakham University Faculty of Nursing | タイ王国 Kingdom of Thailand | 平成29年10月 October 2017 | <ul style="list-style-type: none"> 学部生の短期交換留学 Short-Term Exchange Program for Undergraduate Students 大学院生の研修 Training Program for Graduate Students 教員や研究者・大学院生の交流 Exchange of Faculty Members, Research Scholars, and Graduate Students 共同研究活動 Joint Research Activities 研究協力 Research Cooperation 学術的資料や情報の交換 Exchange of Academic Materials and Other Information |
| シンガポール国立大学 ヨン・ルー・リン医学部アリス・リー看護学科 Alice Lee Centre for Nursing Studies, Yong Loo Lin School of Medicine, National University of Singapore, Singapore | シンガポール 共和国 Republic of Singapore | 令和3年8月 August 2021 | <ul style="list-style-type: none"> 大学院生の研修 Training Program for Graduate Students 教員や研究者・大学院生の交流 Exchange of Faculty Members, Research Scholars, and Graduate Students 共同研究活動 Joint Research Activities 研究協力 Research Cooperation 学術的資料や情報の交換 Exchange of Academic Materials and Other Information |

≪ 2023 年度愛知医科大学 大学要覧抜粋 ≫

添付資料 2

| | | | | | |
|---------------|--|--------------------------|-------------|------|------|
| 科目名 | 看護科学哲学 | 科目区分 | 共通 | 単位数 | 2単位 |
| 教員名 | 高橋照子, 家高洋 | 必修・選択 | 必修 | 開講年次 | 第1学年 |
| | | | | 開講学期 | 前学期 |
| 科目概要 | 哲学史・学問史における看護学の思想史の変遷を探究し、看護学の学問的基盤を究明するとともに、看護実践・看護学の展望を教授・探究する。また、学生自らが探究する課題が、いかなる実践的・学問的位置づけにあるかを探究する。 | | | | |
| 目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護学の発展史を再考し、看護実践・看護学の展望を理解する。 2. 科学哲学の歩みを理解し、看護学の学問性を考察できる。 3. 学生自らの研究課題を探究できる。 | | | | |
| 内 容 | 1 | 看護実践の歴史的基盤 | 高橋照子 | | |
| | 2 | 看護の概念の歴史的変遷 | 高橋照子 | | |
| | 3 | 看護理論の歴史的変遷 | 高橋照子 | | |
| | 4 | 看護学の学問性の発展の探究 | 高橋照子 | | |
| | 5 | 哲学史・学問史とは何か | 家高洋 | | |
| | 6 | 科学史：アリストテレスの哲学と学問 | 家高洋 | | |
| | 7 | 科学史：アリストテレスからデカルトへ | 家高洋 | | |
| | 8 | 科学哲学：科学・学問の方法 | 家高洋 | | |
| | 9 | 科学哲学：クーンのパラダイム論 | 家高洋 | | |
| | 10 | 科学社会学：アカデミズム科学から科学技術と公共性 | 家高洋 | | |
| | 11 | 科学社会学：科学・学問の責務 | 家高洋 | | |
| | 12 | 科学史における現象学の意義 | 家高洋 | | |
| | 13 | 看護学における現象学が意味すること | 家高洋 高橋照子 | | |
| | 14 | 学生各自の研究課題の哲学史・学問史的探究（1） | 家高洋 高橋照子 | | |
| | 15 | 学生各自の研究課題の哲学史・学問史的探究（2） | 家高洋 高橋照子 | | |
| 学修方法 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業は、講義、プレゼンテーション、ディスカッションの形式をとる。 2. 各授業で、事前・事後学習による十分な自己学習が必要である。 | | | | |
| 評価方法 | 授業への参加度（30%）プレゼンテーションの資料・内容（70%） | | | | |
| 教科書 ・参考書 | 野家啓一著：「科学哲学への招待」筑摩書房，2015 S. オカーシャ著：「科学哲学 新版」岩波書店，2023 | | | | |
| 履修上の 注 意 点 | 学生主体で授業を進めるため、毎回学修課題を明らかにして参加すること。 | | | | |

添付資料 3

| | | | | | |
|---------------|---|-------------------------|----------------|------|------|
| 科目名 | 看護学研究方法論 | 科目区分 | 共通 | 単位数 | 2単位 |
| 教員名 | 松尾ミヨ子, 勝野とわ子 | 必修・選択 | 必修 | 開講年次 | 第1学年 |
| | | | | 開講学期 | 後学期 |
| 科目概要 | 看護学研究における近年の新たな研究方法を教授・探求する。また、学生各自の修士論文等を相互にクリティークすることを通して研究方法の理解を深めるとともに、各自の研究課題に関連した国内外の文献の精読を通して、博士論文作成に必要な知識・技術・思考方法を修得する。 | | | | |
| 目 標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護学研究の研究方法の変遷と新たな研究方法を理解する。 2. 研究の基盤となるシステマティック・レビューを理解する。 3. 看護学研究における概念分析の意義および主要な方法について理解する。 4. 質的・量的研究方法を吟味し、自らの博士論文作成への基盤を確かにする。 5. 学生各自の修士論文等の相互クリティークを通して、研究方法を再検討する。 | | | | |
| 内 容 | 1 | 看護学研究における研究方法の変遷 | 松尾ミヨ子 | | |
| | 2 | システマティック・レビューの意義と方法 | 松尾ミヨ子 | | |
| | 3 | 看護科学における概念分析の意義とプロセス | 勝野とわ子 | | |
| | 4 | 概念分析の方法（1） | 勝野とわ子 | | |
| | 5 | 概念分析の方法（2） | 勝野とわ子 | | |
| | 6 | 概念分析の方法（3） | 勝野とわ子 | | |
| | 7 | 質的研究方法の批判的吟味 | 勝野とわ子 | | |
| | 8 | 量的研究方法の批判的吟味（1） | 松尾ミヨ子 | | |
| | 9 | 量的研究方法の批判的吟味（2） | 松尾ミヨ子 | | |
| | 10 | 看護学研究における近年の研究方法（1）質的研究 | 勝野とわ子 | | |
| | 11 | 看護学研究における近年の研究方法（2）量的研究 | 松尾ミヨ子 | | |
| | 12 | 看護学研究における近年の研究方法（3）量的研究 | 松尾ミヨ子 | | |
| | 13 | 学生各自の修士論文等の相互クリティーク | 松尾ミヨ子 勝野とわ子 | | |
| | 14 | 学生各自の研究方法再考（1） | 松尾ミヨ子 勝野とわ子 | | |
| | 15 | 学生各自の研究方法再考（2） | 松尾ミヨ子 勝野とわ子 | | |
| 学修方法 | 講義およびゼミ形式 | | | | |
| 評価方法 | 課題レポートと授業への貢献度を総合して評価する。 | | | | |
| 教科書 ・参考書 | Rogers, BL & Knafl, KA Concept development in Nursing: Foundations, techniques, and applications. WB Saunders. その他必要時提示する。 | | | | |
| 履修上の 注 意 点 | 授業はテーマに沿った議論が中心となる。学生は十分な事前学習をした後、主体的に授業に参加すること。 | | | | |

添付資料 4

| | | | | | |
|-------------|--|---------------------------------|--------------|------|------|
| 科目名 | 成人看護学演習 | 科目区分 | 専門 | 単位数 | 2単位 |
| 教員名 | 谷口千枝, 林さえ子 | 必修・選択 | 必修 | 開講年次 | 第1学年 |
| | | | | 開講学期 | 後学期 |
| 科目概要 | 学生の研究課題を具体的に展開するための基盤となる方法論を明確にし, 先行研究を批判的に吟味することを通して, 研究計画を確定する。 | | | | |
| 目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生の研究課題に関わる国内外の文献の精読・クリティークを通して, 研究方法論を探求する。 2. 自らの研究の研究方法を探求し, 研究に取り組むための基盤を確かなものにする。 3. 研究計画書を作成することができる。 | | | | |
| 内 容 | 1・2 | 学生の研究課題に関わる国内外の文献の精読・クリティーク (1) | 谷口千枝 林さえ子 | | |
| | 3・4 | 学生の研究課題に関わる国内外の文献の精読・クリティーク (2) | 谷口千枝 林さえ子 | | |
| | 5・6 | 学生の研究課題に関わる国内外の文献の精読・クリティーク (3) | 谷口千枝 林さえ子 | | |
| | 7・8 | 学生の研究課題に関わる国内外の文献の精読・クリティーク (4) | 谷口千枝 林さえ子 | | |
| | 9・10 | 先行研究における研究方法論の探究 (1) 研究疑問の設定 | 谷口千枝 林さえ子 | | |
| | 11・12 | 先行研究における研究方法論の探究 (2) 研究方法の決定 | | | |
| | 13・14 | 先行研究における研究方法論の探究 (3) データ分析方法の選択 | | | |
| | 15・16 | 先行研究における研究方法論の探究 (4) 学術論文の記載方法 | | | |
| | 17・18 | 自らの研究の研究方法の探求 (1) 理論的根拠 | | | |
| | 19・20 | 自らの研究の研究方法の探求 (2) 倫理的検討 | | | |
| | 21~28 | 研究計画書の作成 | 谷口千枝 林さえ子 | | |
| | 29・30 | 研究計画の発表 | 谷口千枝 林さえ子 | | |
| 学修方法 | <ol style="list-style-type: none"> 1 講義は, 最新の知見や教員の研究知見に基づいて構成しているため, 講義に関連する書籍・文献を読み込んで授業に臨むこと (90分程度) 2 講義後は, 講義内容やディスカッションした内容を振り返り, 復習しておくこと。 3 授業では, 学生のプレゼンテーション, ディスカッションを通して学修を深める。 4 授業内容の質問, プレゼンテーション, ディスカッション, レポートについては, 全体または個別に, その都度フィードバックを行う。 | | | | |
| 評価方法 | プレゼンテーションとディスカッション (40%), 課題レポート (60%) から総合的に評価する。 | | | | |
| 教科書 ・参考書 | テキストは使用しない。 参考書: 適宜紹介する。 | | | | |
| 履修上の 注意点 | 学生主体で授業を進めるため, 関連文献の事前学修やディスカッションなど積極的な参加を求める。 | | | | |